

丹波のサンショウウオ（続報）

仲井啓郎*・松山確郎**

昨年に続いて丹波（水上郡・多紀郡）のサンショウウオについて知見を得たので報告したい。姫路市立水族館の栃本武良氏から詳細な御指導を頂いた。多紀郡今田町立小学校、梶原典子教諭から度々御連絡を受けた。また、伊丹市坂根干氏からは、昨年・本年とひき続いて調査の機会を与えられた。厚くお礼申し上げる。

1 ヒダサンショウウオ

前号に昨年・一昨年、多紀郡丹南町味間奥の文法寺境内で採集された卵塊について報告したが、共に卵塊のみによる同定であった。本年3月5日、文法寺奥の院下のコンクリート川底の石塊の下で仲井が1成体を得ることができた。

体長135mm♂、体色背面紫褐色で全面に鮮やかな黄斑をもって美しい。腹面は灰白色。仲井は帰校後麻醉させ、鋤口蓋歯列を調べ、ヒダサンショウウオであることを確認した。

埼玉県松山高等学校生物班の埼玉県下サンショウウオの分布調査によると、ヒダサンショウウオはおよそ700m以上の高さの溪流に分布することを報じている。佐藤著『日本有尾類総説』にも同様の高度の地域に住むと記されている。文法寺の高度は300mである。卵塊の採集された溪流は川底が最近造成されたコンクリート造りであるのも特異な環境である。『箕面の自然』によると、大阪府下箕面の勝尾寺（400m）近辺で3、4月に卵塊と成体が発見された記録がある。低いところの溪流近傍にも生息するようである。

柏原高校生物班々誌『NATURA』No.11（昭和29年11月）に2年生の畑中勲が水上郡水上町三原の溪流付近（500m）でサンショウウオ卵塊及び成体を採っている。卵塊のスケッチを同誌上に載せている。牛角状2個の卵塊で、卵数13個、記載の特徴をみると、明らかにヒ

ダサンショウウオと思われる。生物教室に持参した成体の標本がなくなっているため断定できないが、調査する必要がある。1954年3月17日採集である。

但馬及び六甲山地に分布がわかっていたヒダサンショウウオが丹波の山地にも生息することがわかった。

2 カスミサンショウウオ

昨年にひき続いて本種を記録することができた。

平成元年1月30日、多紀郡今田町下小野原、和田寺山北麓の小溝で、近くの今田小学校の梶原典子教諭が児童と自然観察のとき2卵塊、1成体をつまみつけられて報告をうけた。翌31日、現地では6卵塊と1成体を得た。卵塊は産卵直後のものであった。3月14日、再度児童が1成体を得たとの報告で、翌15日訪れ1成体を得、4卵塊を見たがすべて未受精卵であった。ほとんど流れのない浅い、せまい溝である。

<多紀郡丹南町 各地の記録>

高倉 東面する旧水田跡、2対4卵塊、3月5日、かなり卵割がすすむもの。

石住 山麓、水田との境の溝、8卵塊以上、3月5日、溝の清掃の日で、落葉や水草とともにひきあげられているのをみた。

大山宮 山麓の休耕水田中の水溜まりで2卵塊、3月14日、上記地点の小丘の南面するところである。

小・中学生の卵塊発見の報と、私達の限られた地域での調査だけによる記録であるが、精査すれば相当広く分布しているのではないと思われる。丹波地方も最近、水田の整備工事が広く行われている。しかし、山麓のアカマツを含む雑木林に生息するカスミサンショウウオは、産卵時には山麓直下の水田や溝に集まっているようである。



* 県立柏原高等学校 ** 水上郡春日町鹿場